



使う人、管理する人の気持ちが集約された芝生

国立市立国立第二小学校



小林 理人 校長先生

芝生化して良かったこと、変わったことは

休み時間に外に出て身体を動かす機会が増えたことは間違いないですね。雨が降っても水たまりができないので、校庭が使えないということがほとんどありません。子供たちは芝生の上での遊びを工夫して考えるし、ケガが少なくなる。そういった目に見える効果に加えて、芝生を通して地域の方々が一同に会して同じ作業をする、大人が子供たちのためにという目標の下に集まって芝生の維持管理ができるということ、これが大きいですね。学校だけじゃなく、地域のみんなで子供の成長を支えようという機運が高まった、それが一番良かったことでしょうか。



印象に残るエピソードはありますか

牛乳パックを溶かしたものに枯れた芝をすき込んで作った紙を使って子供たちが教職員や地域の方に手紙を書いたんです。私がもらったこの手紙には「校長先生いつも芝の手入れをしてくれてありがとう。」って書いてあります。これは一例なんですけど、大人たちによって芝生が手入れされている状態を見て、子供たちの中にも感謝の気持ちや物を大事にする気持ちが自然と育ってきているという気がするんですね。これも芝生の効果だと思います。

小林校長先生がもらった手紙



「我が校の自慢」を教えてください

とりあえず本校の芝生を見てください。今の芝生の状態を見ていただければ、私たちが普段からやっていることの一端が分かってもらえるんじゃないでしょうか。例えば維持管理についてはPTAの「芝生隊」や地域のボランティアの方など色んな方が関わっています。芝刈りが主な作業ですが、5月は週一回ずつ、6月になると週二回になりますし、夏休みは教職員がやります。また、芝生が伸び始める前にエアレーションを行いますけど、とても多くの方に集まっていただいています。そういう普段の活動があって、誰が見に来ても「良い状態だね」と言ってくれる芝生が生まれました。そこには、様々な要素が全部詰まっているんですね。使う側の子供の気持ちや、子供のために集まってくれる保護者や教職員の気持ち、そういうものが全て集まってあの状態が維持できている、そのことが私たちの自慢ですね。



児童数：380名（平成29年5月1日現在）
芝生化面積：3,104m²
芝生が完成した時期：平成26年度

